

発行人 / 学園町自治会会長・荻野晶子
企画編集 / 学園町自治会広報委員会
編集長 / 浜名 純
投稿・連絡先 / 学園町1丁目14番地31号
電話 / 090-6005-7887

学園町 かわら版

購読無料・各戸配布 / 隔月刊行

112号

毎月の第1・第3・第5月曜日は
学園町自治会の資源物回収の日。
自治会の収益となりますので、
ぜひご協力ください。

春の防災訓練

緊急避難場所「六仙公園」まで

雨の中を歩いてみました

学園町自治会主催の「春の学園町防災訓練」が3月16日(日)に行われました。「緊急避難場所まで歩いてみよう」をテーマに、自由学園から学園町1、2丁目の指定緊急避難場所に指定されている都立「六仙公園」(中央町3丁目)まで歩きました。あいにく雨が降りしきる悪天候でしたが、小学生も交えた13人が参加し、防災についての思いを新たにしました。

午前10時半、しのめ茶寮に集合した参加者は、雨の中を六仙公園に向けて出発、20分ほどで到着しました。さっそく公園スタッフから災害時における公園の役割や、防災設備の説明がありました。

まず、指定緊急避難場所と避難所の違いについてのレクチャーがありました。皆さん、違いをご存じですか。指定緊急避難場所は、自然災害で危険が迫ってくる状況において、住民が緊急に避難する施設や場所のことで、避難所は災害によって自宅で生活できなくなった人が一定期間滞在する場所です。



学園町1、2丁目の避難所は自由学園ですが、大きな災害が発生した場合、開設までに時間がかかることがあり、そこで重要になるのが、指定緊急避難場所というわけです。このことを初めて知った参加者がほとんどで、徒歩でルートを確認できたことはいい体験になりました。

「公園はリフレッシュや憩いの場ですが、災害時に重要な役割を果たします。この六仙公園には、電源やガス、水道が使えなくなった時に役立つ設備があります」とスタッフ。例えば、停電時に自販機内の商品を無料で提供できる



災害緊急ベンダー、ソーラー照明灯、災害時にマンホールの蓋を開け、目隠し用のテントを張ることで仮設トイレに変身する防災トイレ、かまどベンチなど。かまどベンチは、普段は皆さんが座るベンチの下に組み立て式のかまどが収納されており、災害時には煮炊きや暖を取るために使えるというものです。

さようなら みどり湯

2025年1月末で近所の銭湯「みどり湯」が閉店となった。ご近所なのでみどり湯をご存知の方もいらっしゃると思う。この地区でもう一軒の銭湯「ゆパウザ」もあり、地元の自慢だった。ゆパウザの定休日が木曜だったこともあり、みどり湯には木曜にお世話になった。ワタシと同じゆパウザ常連組もちらほら浴槽にいらっしやった。

あちこちに懐かしさが残る。格子天井の立派な建物、磨かれた脱衣所の床、絵師・丸山さんの富士山の壁絵。ちょっとガタビシした木製ロッカーや靴箱、脱衣所の片隅のモップ、端っこがめくれ上がったボスター、色褪せた昔の団扇、体重計、どれも昭和な香りが残っていて、最近流行りのなんちゃら銭湯とかスーパー銭湯には出せない独特の趣きだ。

浴室は、睡蓮の湯、雲海の湯、代わりばんこだったと思う。どちらも味わい深い。サウナはゆパウザに比べると控えめな熱さで狭い。スミマセンとペコっとしながら入室してそうと座る。

見学した参加者は、「ひっそりと置かれているので、気がつきませんでした。心強いですね」と感想を述べていました。

その後、災害時に断水した時に、住民に水道水を配布する都水道局南沢給水所を見て、しのめ茶寮に昼前に戻りました。

西馬一郎(ひばりが丘在住)



温度が低めな分じっくり入れる。水風呂はゆパウザと同じで20度弱で無臭でまろやか。帰宅時に立ち寄り、仕事モードからリセットしたものだ。番台も代わりばんこで営業されていた。入店時はご婦人が多かった。風呂上がりに退出する時にはご主人。小銭を出す台がいい感じに擦り切れていた。多くは話さないタイプで「閉業が決まったんですね」と話を向けてみても、やり切った感じで淡々としておられた気がした。地域に愛された銭湯、本当にお疲れ様でした。

地域連携の取り組みの中で成長する生徒たち 南中学校 校長 若澤直樹

地域にお住いの皆様、市内の様々な事業所、学校関係者の皆様には、日頃より南中学校の生徒を温かく見守り育てていただいております。ありがとうございます。

南中学校では、令和5年度と6年度の2年間をかけ、地域連携によって教育活動の充実を進めることを研究してきました。今年2月にはこの成果と課題をまとめ、研究発表会を行いました。近隣の小中学校だけでなく、たくさんの方の学校関係者に参加していただき「地域社会で活躍する生徒の育成」という研究発表の主題に対しての様々な意見を出し合い、これからの教育活動への地域連携の大切さをあらためて確認する機会となりました。

今年度も地域の小学生対象のお芋掘り体験のスタッフとしての活動や「みなみちゃん祭り」「お餅つきと昔遊び」でのスタッフとしてのボランティア活動など、青少年健全育成協議会の行事で地域の方たちと共に生徒が汗を流し、様々な年齢の人との交流の中や、参加小学生の保護者の方から『ありがとう』と声をかけてもらうことでの深い実感のある自己有用感を生徒が感じられる機会をいただきました。

また2年生の職場体験活動では、地域の商業施設などたくさんの方の事業所での体験活動の中で、インターネット上の情報からでは得られない、地域の様々な社会の活動を一人一人が肌で実感することができました。

これらの活動の中で子どもたちの成長は、生徒アンケートからもしっかりと見取ることができました。

『地域の活動に参加することで、リーダーシップを身に付けたり、自分の成長につながったりすることを実感することはありますか?』との問いに、昨年度の7月は「そう思う」が14%、「ややそう思う」が22%であったものが、今年度の11月には「そう思う」が43%、「ややそう思う」が32%となりました。

また、『自分たちは地域の一員であり、地域の発展や人々の幸福に貢献できる存在であることを実感することはありますか?』との問いには、昨年度の7月には「そう思う」が15%、「ややそう思う」が20%であったものが、今年度の11月には「そう思う」が44%、「ややそう思う」が25%となりました。令和5・6年度に力を入れてきた地域連携の取組の中で、どちら

の項目でも肯定的な回答がほぼ2倍と大きく向上しました。様々な方の協力を得ながらの活動の中で生徒の社会性と自己肯定感が育っていることが確認できました。

特に地域の一員であるという意識は、学校の中だけの教育活動では育てていくことが難しいものですが、『地域の一員』実感することがありますか?という問いへの69%の肯定的解答は、この地域の社会全体の教育力の高さを表しているところだと思います。

おかげさまで生徒達の中にこれからの人生の中での自信に繋がる自己肯定感や、人生を豊かにする社会性を培う地域社会の一員としての自覚を育てる事ができました。皆様のご協力に深く感謝いたします。

新たな未来に向かって

第五小学校 校長 古矢美雪

春のうららかな陽ざしの中で校庭の桜も満開になり、本校のシンボルである「けやきの木」も若葉をつけ、新しい息吹を感じます。新しい環境の中で頑張っている子供たちを優しく温かく包み込んでいるようです。

昨年度、学校創立六十周年の節目の年を終えた第五小学校。今年度は六十一年度です。今月からはまた、新たな未来に向かって、第一歩を踏み出しました。百十二名

子どもたちの学びの広がりはいくらから社会で生きていく生徒には絶対に必要なものです。地域の方や学校外の方と活動することで子どもたちは地域社会を五感で感じ取ります。これは社会性を育てるために必要不可欠な大切な経験です。

今年度も南中学校ではこれらの取組を進め、地域、家庭と共に子どもたちを育てていく教育活動を目指します。どうぞ今後も子どもたちのため、ご理解ご協力をお願いいたします。

◆ 若澤先生は、4月から東久留米市立中央中学校に移りました。理科の教員として勤務します。南中在任中ありがとうございます。

のピッカピカの一年生を迎え、昨年度よりも一学級増の二十六学級での船出です。昨年度は六十周年ということで、地域の皆様にもたくさんご協力をいただき、子供たちの心の中に、郷土愛・地域愛を育むことができました。ご協力いただいた皆様、誠にありがとうございます。今年度も、その財産を引き継ぎながら、地域の皆様と一体となり、よりよい教育活動を展開していこうと思っております。

どうぞよろしくお願い申し上げます。先日の卒業式の校長の式辞の中で、本校にご縁のある谷川俊太郎さんの詩を紹介しました。皆様にもご紹介します。

『木を植える』 谷川俊太郎

木を植える それはつぐなうこと
私たちが 根こそぎにしたものを
木を植える それは夢見ること
子供たちの すこやかな明日を
木を植える それは祈ること
いのちに宿る 太古からの精霊に
木を植える それは歌うこと
花と実りをもたらす 風とともに
木を植える それは耳をすますこと
と
よみがえる 自然の無言の教えに
木を植える それは知恵 それは
力
生きとし生けるものを むすぶ

今年度の第五小学校で、子供たちはどのような木を植えるのでしょうか。どのような木を植えたか、いと思つて行動してくれるのでしょうか。

それを導く私達教職員は、子供たちに寄り添いながら子供たちと共に、第五小学校ならではの、木を植える一年にしたいと思っております。



全国各地の町や村を巡って 『日本の原風景99』を出版した

近藤正文さん（1丁目在住）

近藤正文さんが、日本各地の風景を写真とエッセーで綴った『日本の原風景99』（発行・いりす 発売・同時代社 3000円＋税）を出版しました。近藤さんは、建築の専門家として長年、住まいづくりや町まちづくりの仕事に携わる傍ら、日本の伝統的な村や町を歩いてきました。そんな50年に及ぶ「風景探し」の旅で訪ねた場所は数えきれないほどですが、このうち99力所を選んで掲載しました。「原風景は心の奥にある心象風景かもしれません」と語る近藤さんにインタビューしました。

——半世紀にわたって町や村を巡ってきました。そのきっかけや動機はなんだったのでしょうか。

近藤 私が生まれたのは瀬戸内海の備前の干拓地で、地下水位が高いのです。それで、大きな木が育ちにくい。ところが、就職して東



京に出てきたら、ずいぶん背の高い大きな木がある。武蔵野台地は地下水が深く、根が地下深くまで入るので高木になります。風景が地下水によって違うんですね。若い頃に、和辻哲郎の『風土』を読みました。彼は船で日本を出て

ヨーロッパに行くのですが、船から見える風景が港ごとに変わる。それは何故かと考察しました。20歳の頃、それに魅せられました。

そして、就職してまちづくりの仕事に携わった時に、仕事の糧になるような風景に出会って感動したことがあります。なぜそういう風景ができたのだろうかと、いうことを探ってみました。なりました。それが出発点です。ニュータウンや団地を作るとい

いう二つの面から生み出されていくものです。しかし、団地やニュータウンは、職場が都心にあり、自分が住んでいるところに生業はない。でも、そこに何かもう一つ描けるものはないかということ歩き始めたのです。

——原風景とはなんでしょうか。

近藤 原風景の原点はふるさとだと思います。自分が育った所の風景を、懐かしいと感じ、自分の風景だと思ふことがスタートです。しかし、それとは正反対のものを

見て、心象風景としての原風景を作る人もいるかもしれません。再開発でできた近代的な高層ビルの街もいずれ原風景になり得るので

す。長崎の軍艦島を原風景と思う人と、単なる海底炭鉱の跡として認識するだけの人もいます。

——富士山の砺波平野の風景は、あそこに住んでいた人たちにとっては原風景であっても、北海道で育った人は、変わった風景だなど思うだけかもしれません。

——今までに何力所ぐらい巡ったのでしょうか。どのくらいの距離になりますか。

近藤 日本だけでなく、ヨーロッパや東南アジアも巡りました。日本だと車の走行距離が65万キロです。地球一周が4万キロですから16周以上ですね。30歳過ぎてからは、もっぱら車で回りました。在任中は職場の仲間と一緒に、定年退職後は妻と回りました。これまでに、300力所近く訪

れましたが、1回だけの所も数回行った所もあります。2回行った所では、細い路地に面していた建物がなくなり、ちよつとした広場ができていたりします。

水田や畑があり、あるいは養蚕のための桑畑があり、そのそばに建物があるという風景は、その時々々の生業との関係で生まれてきました。経済構造、社会構造が変われば当然風景も変わってくるのです。それをフィックスして観光地化させても、どこかで限界がくるのではないかと思います。

——この本では、写真も重要なファクターとなっています。写真との出会いや、撮影の時に心がけていることをお聞かせください。

近藤 父からももらったカメラで、写真を撮り始めたのは、大学生の頃、山に登るようになってからです。その風景を象徴しているもの、代表しているものは何かを探り出して撮ります。有名な城とか建物は、自分の権威や権力を見せつけるために造っています。それに対して町の風景は、権力を主張するものとは違っています。もっと日常的なもので、それが集まって何かの風景を作っています。

プロの写真家が撮っている写真と、私の写真は違います。写真家が重要視するのは時間帯や光線の向き。それを狙って撮っています。私はそういう写真の撮り方ができない。あちこち動くので、自分がそこに行つたとき、雨でも曇天で

もその範囲で自分の叶えられるものを撮っています。

——本の題名に「99」とつけました。100力所ではなく99力所としたのはどうしてでしょうか。

近藤 ベスト3とか100選というのは順位をつけているわけですが、原風景というのはそういうものではありません。それと99には「さまざま、数多くの」という意味があります。それぞれの人が自分の原風景を持っているはずですから、自分の1枚を加えて100にしたらどうでしょう。

——最後に学園町という町について一言お願いします。

近藤 学園町は、自由学園の創始者・羽仁もと子、吉一夫妻が、この地に10万坪の土地を購入、3万坪を学校用地、残りを関係者などに分譲したことから始まりました。購入した人が、互助の精神で大事に住み育ててきた町です。引越してきた頃、使われなくなった物を玄関先に出して譲り合う精神が残っているのに感銘しました。また、正月の門松にも日本の原風景を感じました。これから先人の志を生かしていければと思います。

近藤正文さん 1946年、岡山県生まれ。京都大学工学部卒・同大学院修了。環境計画・都市計画を学ぶ。日本住宅公団に入り、団地やニュータウンの計画に携わる。

4月といえば草木が芽吹いてくる季節。学園町も木々のわかばが始めて街の景色が明るくなってくるような気がします。

花市場でも枝物、草花たちがたくさん出てきます。枝物の数が断然多いのがこの時期で、花束やアレンジも枝物、葉物をいれてナチュラルなものができ、とても楽しめます。

サクラ、こでまりなどは3月下旬で終わってしましますが、キバデマリ、ビバーナム、リョウブ、ライラック、等々、たくさんできます。逆に年中あるように思われるユーカリは新芽が出てくるとそこから水が下がるようになります。あまり見なくなります。



花だより④

切り花にとっても良い季節です

花屋さんの店先をちょっと覗いてみませんか



立川 まり

小学校入学おめでとう——。2月23日(日)と3月30日(日)、学園町のピッカピカの一年生に自治会から色鉛筆がプレゼントされました。毎年恒例の催しで、今年の学園町の新一年生は昨年と同じ8人。

ピッカピカの一年生に色鉛筆のプレゼント

TEL/FAX 042-423-8646
E-mail support@life.jp
(フローラルライフ) 立川まり

暑すぎず、寒すぎず、切り花にとつてもとても良い季節です。野の花のような花達を楽しんでいただけたらと思います。

切り花はチューリップ、スイートピーなどは終わってきますが、マトリカリア、マーガレット、ニゲラ、カンパニュラなどの可憐な草花が出てきます。

スズランもほんの短い期間ですがでてきます。可憐でとても人気がありますが、スズランには毒性があります。花や葉を口に入れないことはもちろんですが、挿していた水を間違えて飲んでしまったりすると危険です。お子さんやペットのいる家庭では手の届かないところに置くなど十分気を付けてください。

他にも可憐な花達はたくさんありますので学園町をお散歩したり、花屋さんの店先を覗いてみてたりしてください。



昨年までは、60色の色鉛筆でしたが、今年は72色にまで増えました。お父さん、お母さんと一緒に、自由学園しのめ茶寮会議室にやってきた4月からの新一年生は、荻野晶子自治会長と自治会運営委員の半澤佐和子さんから大きな色鉛筆のケースをもらって、「ありがとうございませう。小学校でも頑張ります」とニコニコ。

プレゼントには「〇〇さんへ。小学校入学おめでとう！ あたらしい おともだちといっしょにあそんだり おべんきょうをしたりのしい まいにちを おくつてね♡ 学園町自治会」というお祝いの言葉が添えられています。

おしらせ

《南部地域センター》

※各イベント問い合わせは南部地域センター(指定管理者(株)セイウン) ☎ 042-451-2021
Mail higashikurume_nanbu@s-seiun.co.jp

★「シニアヨガ」

ヨガを始めるのに年齢や性別は関係ありません。今の自分を受け入れ、自分のヨガをみつけましょう。

・4月11日(金)・4月25日(金)
・5月09日(金)・5月23日(金)
1部 10:00～11:00
2部 11:30～12:30

・参加費:700円(当日払い)
・対象:65歳以上 男性も大歓迎!

・持ち物:ヨガマット・水分補給 動きやすい服装・厚手のバスタオル、汗拭きタオル

・講師:ヨガイストラクター AZUSA

★お宝いっぱい!「まあぶるミニバザー」

地域の皆様よりご提供いただいた洋服・食器類・雑貨・書籍等をお手頃価格で販売します。ぜひお越しください。

・4月22日(火)・5月27日

(火)13:30～15:00

・会場:南部地域センターピロティ
・問合せ:(社福) すぎのこ まあぶる ☎ 042-473-5896

★「フラワーアレンジメント講座」
・4月27日(日) 14:00～16:00

・会場:地区センター調理集会室
・参加費:1,000円(材料費)

・持ち物:持ち帰り用袋・タオル・ハサミ・カッターナイフ

★「バクさんとうたおう!」
・4月27日(日)

開場:13:15 開演 13:30～
・会場:講習室

・参加費 500円・持ち物、筆記用具

★「なんぶ朝市」開店
・5月4日(日)・6月1日(日)

9:30～11:30
(売り切れ次第閉店! 早めにどうぞ!)

・会場:南部地域センターピロティ
・協力:なんぶ朝市事務局

★「介護予防・きくちゃんの脳トレ体操」

レクレーション介護士による脳トレと体操でフレイルを予防しよう!

・5月4日(日)・6月1日(日) 10:00～12:00
・会場:地区センター集会室

・参加費:300円

・持ち物:タオル・筆記用具

★「なんぶおしゃべりサロン」

ざっくばらんなおしゃべりで心のコリをほぐしましょう!

・5月4日(日)・6月1日(日) 13:30～15:30 音楽室

・参加費 100円・定員 10名

★「ひばりんフェスタ」

ゴールデンウィークの最終日、かぞくみんなで楽しめる1日を!

・5月6日(日)10:00～16:00
・会場:講習室・ピロティ

・内容 ワークショップ・リラクゼーション・ピロティフェスタなど

★ひばりが丘音楽会特別企画
「岩美陽大バリトンリサイタル」

・5月25日(日) 会場 13:30 開演 14:00～ 講習室

・入場料:1,000円(全席自由)
・曲 目:Ma rendi pur contento

木宛
Credo in un D io crudel
Eri tu che macchiavi 他

・ピアノ:近藤大夢

《自由学園》

※イベントの問い合わせ先は自由学園広報自由学園広報本部

TEL:042-428-2123
e-mail: kh@jiyu.ac.jp

URL: https://www.jiyu.ac.jp

詳細・お申し込みは自由園のホームページからお願いします。

■ U12 こども広場

日時:4月19日(土) 10:00～13:00

自由学園のキャンパスを使って、ご家族でのごんびりお過ごしください。

ワークショップも企画中です! お申込みお待ちしております。

■自由学園幼児生活団幼稚園
●園庭開放

日時:5月19日(月) 10:00～11:00(食事付き)

日時:5月29日(木) 10:00～11:00

会場:自由学園幼児生活団幼稚園
幼児生活団幼稚園入園希望の方

園庭開放を行います。

●入園説明会
日時:5月24日(土) 10:00～11:30(予定)

■自由学園初等部
●児童とつくる学校説明会

日時:5月17日(土) 9:30～11:30

会場:自由学園初等部
自由学園初等部の教育に興味・関心のある方

●運動会
日時:5月31日(土) 9:30～11:30

会場:自由学園初等部
元気いっぱいの児童たちが輝く姿をぜひ見に来てください。